



ラウンジ QR コード

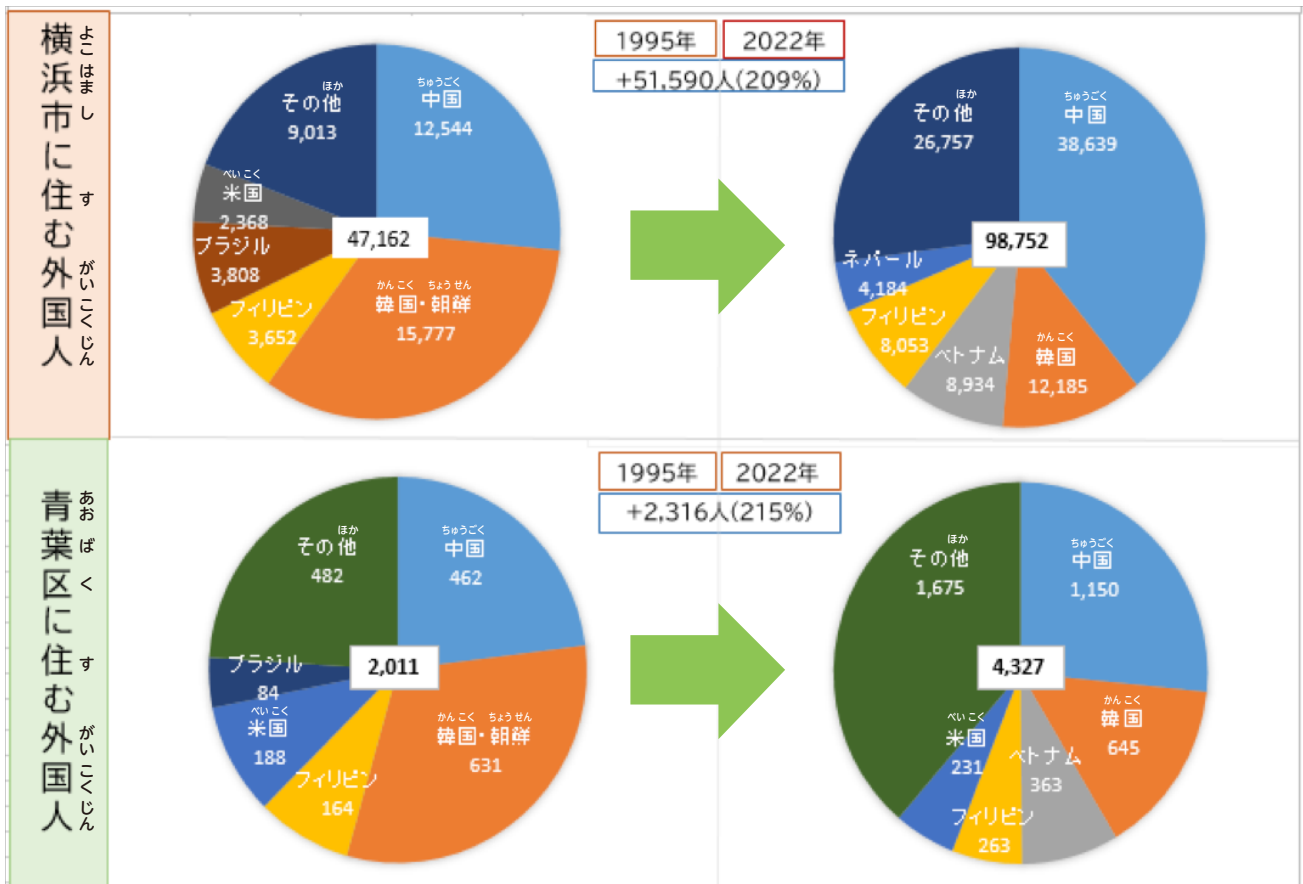
「横浜に暮らす外国人」の暮らしの体験から考える多文化共生

2006年、国は、日本に住む外国人について、多文化共生推進プランを作りました。外国人を日本人と同じ地域に住む＝「生活者」としました。2020年には「生活で困らないように、いろいろな言葉で説明する」「相談できる場所を作る」「日本語を習う場所を作る」「生活に必要なことを学ぶ場所を作る」「外国人といっしょに街を作り、留学生が地域で働くことができる場所を作る」などが、書かれました。

ラウンジは、多文化共生を見直すことにしました。このラウンジニュースでは、この地域に住む外国人がどのように考えているのか紹介します。

青葉区が制定 (1994年) されてから27年、横浜に暮らす外国人は…

青葉区が制定されてから27年、この間に横浜に住む外国人の居住者は、約10万人（青葉区では4,400人）になり、居住者の出身国の数も160か国と大きく増加。多文化共生の取組は、多層化、多面化してきています。



横浜市青葉国際交流ラウンジは、横浜市の委託を受けて NPO 法人横浜青葉国際交流の会が運営しています。

『家庭』から見える横浜の「多文化共生」

ラウンジでは、この地域に住む外国人がどのように考えているのか、さまざまな人にアンケートをしました。この号では、横浜に住む外国人の話や、家庭から見える横浜を紹介します。

次のような内容のアンケートをしました。

日本滞在期間、横浜市への居住理由、居住して良かったこと・困ったこと・戸惑ったこと、日本の行政に変えて欲しいこと、日頃思っていることなど。



安部 アンドレア香代子

ペルー出身。1981年に、結婚のため来日。夫の勤務先があった横浜に住む。近所の方がとても親切です。四季があり気候がいいことが気に入っています。子育ての時は、荷物やベビーカーで移動するのが大変でした。買い物をすると、品物が沢山の紙に包まれてるのに驚きます。

*当ラウンジで、スペイン語での外国人スタッフとして勤務していました。

蕭竹吟 (HSIAO CHU YIN)

台湾出身。2019年に、夫の仕事のため来日。公園などの自然を楽しんでいます。出入国在留管理庁横浜支局が遠いのはこまります。日本人は電車で、大声で話さないことや、外にゴミ箱が少ないことには戸惑います。早くコロナがおわり、家族や友だちに会いたいです。

*現在、当ラウンジで、中国語での多文化スタッフとして勤務しています。



「多文化共生」という日本での考えはどう思いますか

安部：リマでは、いろんな外国人が行き来し、いっしょに暮らすことは当たり前です。多文化共生を意識したことはありませんね。日本では、最近になって急激に大勢の外国人が来るようになり、意識し始めた言葉ではないでしょうか。

シャオ：言葉は分かります。台湾ではまず多文化交流を考え、多文化共生はその後ですね。

あなたの目から見える、横浜の生活は

安部：現在、公団に住んでいます。自治会の役員を3回ほど行いました。みなさんがやさしく、言葉で困るとすぐに説明してくれます。自治会に参加している外国人は少ないと思います。参加して、日本の仕組みが分かります。

シャオ：自治会の意味・役割は、知っていますが、自治会費を払うだけの付き合いです。近所の付き合いは大切だと思います。上の階のお年寄りとは親しくはありませんが、何かあったら一番に助けに行きます。災害の時は必要です。台湾では当たり前のことです。台湾では、子供の頃は、成績のことを、あまり言われませんが、中学校に行くようになると、成績のことを言われるようになります。

安部：小さいころ、日本にある公文書みたいな習いごととはしませんでした。子育てでは、日本の病院での申請手続きが難しく、分からないので全て夫任せでした。

生活して戸惑ったこと、行政に変えてほしいことは

安部：役所への申請手続きすべて難しく、手続きや書類をわかりやすく書いてほしいです。

シャオ：特に年金のお知らせは、本当に分かりにくいです。日本語教室で勉強していますが。

安部：外国人の中には役所の通知を捨ててしまう人もいます。大事なものと分かるように、封筒に目印をつけてほしいです。

ラウンジのようなところは、あなたの国にもありますか

シャオ：台北には、交流協会みたいなものがありますが、困りごとがあったら、領事館に行くか、友人、知人に聞くしかありません。

安部：ラウンジはありませんが、ペルーの日系人とペルー政府の協力で日秘文化会館というのがあります。



おう えい
王 穎 (WAVNG YING)

中国 大連出身。2008年に、日本人の夫と結婚するために来日。夫の実家が横浜なので横浜に住んでいます。横浜が大連と同じ港湾都市なので気に入っています。住んでいて困ったことや戸惑ったことはありませんが、中学生と小学生の子どもの生活の会話で、中国語で話しかけても返事は日本語になっていることが、少し気になります。

りー しょうほう
李 承芳 (LI CHEN FANG)

中国 湖南省出身。2020年に、日本人の夫が、仕事の関係で帰国することになったので、来日。夫の実家が横浜(青葉区)なので、横浜に住んでいます。日本は、いつも静かなので、自分の声が大きいことを心配しています。自分の国では、みんな声が大きくにぎやかなので、ちょっと戸惑っています。



「多文化共生」という日本での考えはどう思いますか

二人とも同じような印象を持っています。日本では、東北地方と九州地方では料理が違います。それが自然に共生しあい、ミックスされ日本全国あちこちで食されています。中国という広い大陸、国内でも北と南の料理に違いがあり、それがすべて中国料理として日本に入ってきています。まさに食を通した多文化共生と言えます。しかし、二人の料理は当然住んでいたところの違いがあります。

あなたの目から見える、横浜の生活は

王：中国人は声が大きいです。

李：日本人は、声が小さくて、聞こえないことがあります。分からなくてもそのままにしていたりします。私の国ではみんな声大きいので、日本では外で、私の声が大きくて注意されることがあります。にぎやかでよいかなど思っているのですが。

生活して戸惑ったこと、行政に変えてほしいことは

王：日本語の中で今「敬語」をなっています。日本語では、敬語が必要なので戸惑います。

李：日本には、海の日など、休日が多いことが気になりました。

ラウンジのようなところは、あなたの国にもありますか

王：分からない時や、人に聞きたいことは Wechat (中国のSNS) を使って解決しています。区役所では、AI 翻訳機が職員の手携帯に入っているようですが、知りませんでした。

李：中国語で子どもたち(中学生、小学生の二人)に話しかけても、王さんとおなじように、子供たちの返事が日本語になります。どのように育てたらよいのか考えています。私は、友だちからラウンジを紹介してもらい、日本語を学んでいます。子どもたちの場合はどうすればよいのでしょうか。

料理文化も多文化共生

安部：辛いのが好きです。特にアヒージョ(とうがらし)黄色いものを使います。ロモサルタードを紹介しします。

シャオ：わたしは鶏の三杯鶏(サンペイジ)を紹介しします。

王：カニ、アワビ、シャコ、ナマコなど海鮮料理が有名。干しなまこを使います。上海ガニなど日本でも有名ですが、大連あたりからもはいつてきているかも。今回は、冬瓜とスペアリブのスープ料理 冬瓜排骨湯(ドングワパイグータン)を紹介しします。

李：日本では辛い中国料理と言えば四川料理を想像しますが、もしかしたら湖南省もそうですね。ザーサイの入った青椒肉絲(チンジャオロース)もあります。



Lomo saltado (ロモサルタード)



三杯鶏 (サンペイジ)



冬瓜排骨湯 (ドングワパイグータン)



青椒肉絲 (チンジャオロース)



本はラウンジで借りることができます。(一人2冊2週間)どうぞラウンジに来てご覧ください。
 まだしばらくはコロナ禍が続きます。外出を控える分、本を読む時間を増やしましょう。そして読書を楽しみ、
 コロナ禍を乗り越えていきましょう。この欄で紹介する本が、お役に立てばうれしいです。

あおばこさいこうりゅう ねんど おも よてい
青葉国際交流ラウンジ 2022 年度の主な予定

7月	・アフタヌーンティー ・やさしい英語でレクチャー ・子どものためのイベント
9月	・みんなで国際交流
10月	・海外事情講演会 ・やさしい英語でレクチャー
11月	※区民祭り、センター祭り(区主催行事に参加) ・日本語スピーチ大会(一般参加は検討中) ・アフタヌーンティー
12月	・やさしい英語でレクチャー
1月	・新年の集い ・ボランティア募集説明会
2月	・新規プロジェクト
3月	・みんなで国際交流 ・アフタヌーンティー ・やさしい英語でディスカッション
毎月	・日本語教室 ・子ども学習補習教室 ・外国語教室(英語、中国語、スペイン語)

●日本語教室と外国語教室はクラスによって週の開催日が決まっています。行事、予定は変更になることがあります。

●問題な日本語

たいしゅうかんしよてん
大修館書店

「ご負担いただくかたちになって
 います」「千円からお預かりします」
 「コーヒーで大丈夫ですか」などなど、
 最近使われている言葉は、間違い？
 それとも、言葉の変化？
 気になる方に、お勧めの本です。

●てぶくろ

ふくいんかんしよてん
福音館書店

おじさんが雪の上に落とされたてぶくろに、
 初めはネズミが住み込み、ウサギやキツネが続き、
 大きくなったてぶくろにはイノシシが。そして、
 最後は大きなクマまでも。てぶくろ探しにおじさん。
 住んでいるみんなはどうなるかな。

*** おしらせ (ウクライナ避難民支援) ***

横浜市では、横浜市国際交流協会(横浜市多文化共生総合相談センター)が相談窓口になっています。

電話 045-222-1209
 月曜日～金曜日 10:00～17:00
 第2、第4土曜日 10:00～13:00



日本語をならいたい人!

●おとなのための教室(高校生以上)

日本語教室 会費: 300円/月(どのクラスも)

水曜日 午前9時30分～11時
 木曜日 午後6時30分～8時
 土曜日 午前9時30分～11時

●学習補習教室

(外国につながるをもつ子どものためのクラス)

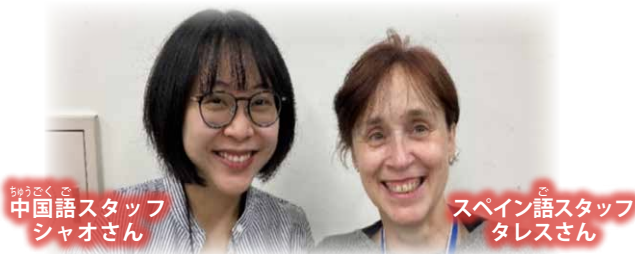
(無料) 水曜日
 (小学校入学1年前～小学6年生)
 午後3時45分～5時15分
 (中学生) 午後6時～7時15分

コロナの関係で時間が変更になるかもしれません。窓口
 にお問い合わせください。



●ラウンジではやさしい日本語を使って、外国人のかたへ案内しています。

また、英語でお答えすることもできます。中国語スタッフ、
 スペイン語スタッフは水曜日午前9時～午後1時です。電話でた
 ずねてください。



へんしゅうこうき
編集後記

当ラウンジでは、設立当時から、多文化共生に取り組んできました。それから30年、横浜市に暮らす外国人も増加し、その出身国も多様化し、多文化共生の取り組みは、多層化、多面化しています。居住者の人から実態を伺い、当ラウンジ支援活動に活かしていきたいと思っております。